

中年期の糖尿病が晩年の認知機能低下に関連する

2型糖尿病が認知症リスクに関連することは知られているが、糖尿病や前糖尿病と認知機能の低下との関連についてはエビデンスがほとんどない。そこで本研究では中年期の糖尿病と20年後の認知機能の低下の関連について前向きコホート研究を実施し検討した。

試験開始時（1990～1992年）に48～67歳であった13,351人を対象とし、20年間追跡した。その結果、中年期に糖尿病であった者は、そうでなかった者と比べて20年間での認知機能がより低下していた（+19%）。また、前糖尿病患者（HbA1c5.7%～6.4%）ではHbA1c値が5.7%以下の者と比べて認知機能の低下の度合いがより大きかった。さらに、糖尿病管理が不良である患者は（HbA1c7%以上）、管理が良好な患者よりも思考力の低下が大きかった。糖尿病の罹患期間が長さと、晩年の認知機能の低下にも関連がみられた（傾向の $P < 0.001$ ）。

したがって、中年期の糖尿病や前糖尿病が晩年の認知機能の低下に関連することが示され、中年期に糖尿病の予防や管理をすることにより晩年の認知機能の低下を防ぐことができることが示唆された。

出典：Annals of Internal Medicine. 2014; 161(11): 785-793